



“ 週初めのミーティングで「学び」と「気づき」をシェア ”

毎日の生活の中で

こんなことを意識してみませんか？

メモ欄は週間目標の記入等にご活用ください



社員教育へのご活用は
こちらから



ニューモラル

心のクローバー



第 4 週

心次第で 関わっていける

私たちは、毎日のように報道される世界の出来事に対して、知らず知らずのうちに無関心になっていることに気づかされます。戦争や貧困による悲惨な境遇の人々のことは知っていても、心で感じなくなるのです。それは、自分一人の力では何もできないという無力感からかもしれません。しかし、大切なのは「心の態度」です。今日では、私たちは世界の見知らぬ人々とも深く関わっています。

私たちが社会で生活をするということは、どこかで誰かに支えられ、生かされていることに他なりません。広く社会に目を向け、身近な生活の場で具体的に関わっていくこと。その積み重ねによって、次代の人々のための今より住みよい世界が形づくられていくのです。



MEMO

メモ

第 3 週

点滴石を穿つ 実行を心掛ける

思いやりの心はどこでも培うことができます。小さな思いやりの実行を積み重ねていくことが、その人の人生をよりよくしていくだけでなく、周囲にも思いやりの心を広げていきます。

例えば「点滴石を穿つ^{てんてき うが}」という言葉があるように、一滴の水の力は小さなものであっても、長い間の繰り返しによって石に穴をも開ける力があります。

また一滴の水は集まって小川をつくり、やがて大河となって大地を潤していくように、家庭から職場、さらに地域社会へと思いやりの実行を広げることもできるでしょう。ですから、一滴の思いやりを軽視することは間違いです。まず一滴の思いやりの実行を身近なところから心掛けたいものです。



MEMO

メモ

第 2 週

思いやりのころろは 使うほど大きくなる

保育科学研究所の所長だった川合月^{かわ い げつ}海氏は、人間は生まれてから死ぬまで「活動性肥大の法則」に支配されている、と言っています。心も体も、使い、触れ、活動すると、その部分が大きく発達します。逆に、使わず、触れず、活動させないと、発達せず、退化していく、という法則です。

活動性肥大の法則は、思いやりの心にも適用されているようです。思いやりの心も、使えば使うほど大きくなっていくのです。思いやりの心を使うチャンスは日常のあらゆる場面にあります。

大きな思いやりの心を持った人は、人に親しまれ、信頼されます。そして、それはビジネスを良い結果に導く力となるのではないのでしょうか。



MEMO

メモ

第 1 週

心の中の「我」を 浄化する

自分こそが正しいという「我」は、私たちの心の中に忍び込んできます。障害にぶつかり物事が思うように運ばなかったときこそ、その原因は自分の心の中に^{ひそ}潜む「我」にあるのではないかと、反省してみることが大切です。穏やかに相手の立場に立った思いやりの心を働かせていけば、自分中心の「我」の心が少しずつ浄化され、弱まっていきます。

濁った水が入ったコップにきれいな水を少しずつ注ぎ続けていくと、必ず澄んだ水になります。心もこれと同じです。

自分の「我」を弱め、思いやりの心を働かせることでスムーズに仕事が回り始めることがあります。その先に心の通い合う豊かな社会が築かれていくのではないのでしょうか。



MEMO

メモ